

追 悼

故木村 嘉孝先生を偲ぶ

三重大学大学院 生物資源学研究所
橋本 篤

木村嘉孝先生は本年4月14日ご崩御されました。原因は原発不明ガンであり、享年77歳でした。お目にかかったときは常に前向きの発言をされ、昨秋開催された照明学会の研究会においてもいつもと変わらないお元気なお姿を拝見しましたので、遠赤外線協会から突然の訃報が届いたときは大変驚きました。ここに謹んでご冥福をお祈りしますとともに、遠赤外線利用に関わる皆さまを代表し、ご功績を偲びたいと思います。

木村先生は、1962年早稲田大学第一理工学部卒業後、昭和電工(株)に入社し、高分子物性研究やセラミックス焼結炉設計などに従事された後、1981年にセラミックス事業部部長に就任され、セラミックス新素材開発や遠赤外線システム事業を担当されました。ちょうどこの頃が様々な意味で遠赤外線ブームのピークではなかったかと思えます。1995年には東海高熱工業(株)(TKエンジニアリング)に移られ、技術部長として遠赤外線の技術開発を牽引されました。退職後は、2001年に木村技術事務所を設立され、引き続き様々なフィールドにおいて遠赤外線関連の技術開発に精力的に携われました。この間、遠赤外線協会顧問、照明学会赤外放射応用委員、日本エレクトロヒートセンター遠赤外線技術加熱部会委員等を歴任されました。とくに、遠赤外線協会の前身である遠赤外線産業協会の発足にご尽力なされ、遠赤外線協会の法人化、法人化後の遠赤外線利用技術の普及や標準化に関しては、木村先生のご貢献は計り知れないものがあります。

遠赤外線利用に携わる方ならばどなたでもご存じのように、木村先生は、海苔、魚節、ゾル、果汁、冷凍食品等、種々の含水物を対象とした遠赤外加熱・乾燥装置を数多く開発されました。また、これらの関連特許を取得し、遠赤外線技術の進歩に大きく寄与されました。一連の研究開発においては、経験的事実を定量的実験および赤外放射伝熱則に結び付けながら解明され、その成果を各学会・協会誌(遠赤外線協会会報、照明学会誌、化学工学、食品工業、食品化工技術など)に公刊することにより、遠赤外線利用技術の発展および遠赤外線関連産業の振興に貢献されました。とくに、遠赤外線協会誌に連載の「遠赤外線の基礎」や「最近の遠赤外加熱論文解説」は、遠赤外線技術を総合的にとりまとめた解説書として、また世界の遠赤外加熱研究を紹介する入門書として高い評価を得ております。

思い起こせば、私が木村先生にはじめてお目にかかったのは、大学4年生になり故・清水賢教授の指導のもとで卒業研究に着手したばかりの頃で、30年以上も前になります。研究テーマは遠赤外線加熱の食品加工への応用で、当時は遠赤外線ブームのはしりであり、恩師の清水教授のところには様々な方が来られておりました。通常は清水教授だけで対応するのですが、清水教授は木村先生をわれわれ学生にも紹介して下さいました。まだ研究のイロハも知らない学生でしたが、厚かましくも実験装置の相談などをしたのを記憶しております。大学院を修了して大学教員となり、何もない状態からの研究の立ち上げ時に遠赤外線乾燥装置を自作しましたが、その際にも様々なご協力を賜りました。その後、遠赤外線協会との共同研究や委員会活動をとおして勉強する機会を与えて頂き、大変感謝する次第です。研究の進め方に対し、「論文は書けるかもしれないけど、もっと実用化につながるような取組はできないか」といった厳しい意見も現在の糧になっていると思えます。また、照明学会の赤外放射応用関連委員会にも誘って頂き、木村先生の人脈をとおして私の研究の幅もだいぶ広めることができたと思えます。改めて御礼申し上げます。

一方、プライベートにおいても大変お世話になりました。遠赤外線協会の研究報告会が鳥羽で開催されたことがあり、その帰路に木村先生、清水教授と私で伊勢神宮に参拝し、その後、赤福本店で休憩したのは大変よい思い出です。また、休日に木村先生のご自宅で開催されたワインパーティーに参加し、夜遅くまでお邪魔したこともありました。ご自慢のオーディオシステムの奏でる音楽を聴きながら、参加者みんなでワインセラーから何本ものボトルを取り出し、空にしたのを記憶しております。大変厚かましいことをしたにもかかわらず、にこにこされてわれわれをもてなして下さいました。どうもありがとうございました。



遠赤外線放射利用に関する考え方に関しては、木村先生と私とで必ずしも全く同じではなかったかと思いません。しかしながら、私のような未熟な者とも気安く議論を交わして下さいました。木村先生のように、理論と現場の両面から遠赤外線利用技術に関して論じられる方を失ったのは大変大きな損失だと思います。これからもっとお話を伺い、色々教えて頂きたかったという思いでいっぱいです。毎年交わしてきた年賀状も来年からは届かないと思うとさみしさを抑えることができません。最後になりましたが、長い間色々ありがとうございました。あらためて、木村先生のご冥福をお祈り申し上げます。

【お元気な頃の木村先生のお姿】



2014年 第22回定時総会に



2011年 技術シンポジウムでのご挨拶



2010年 照明学会誌の座談



2016年 第24回定時総会後の懇親会にて



2007年 出張技術研修会でのご講演風景



2009年技術シンポ講演でのご講演風景

追悼

故木村 嘉孝先生を偲ぶ

関東学院大学 理工学部 理工学科
中野 幸夫

2017年5月下旬、訃報をいただいた。木村嘉孝さんがお亡くなりになられたとのこと。入院療養中であることはしばらく前にお聞きしており、心配していたところでした。ご逝去を悼み、心からご冥福をお祈り申し上げます。

木村さんとの出会いは30年ほど前にさかのぼります。当時、私は電力中央研究所の研究者をしており、100万ボルト送電線などのコロナ障害に関わるプロジェクトに参加していました。しかし、プロジェクトも山場を越え、そろそろ次の研究テーマを探すべき時期に来ていました。そんな折、研究部長から遠赤外線の研究をしてみないかと打診を受けました。学生時代にミリ波を使ったアークプラズマの電子密度計測を研究テーマにしていた私は「波長をもう少し短くすれば遠赤外線だから何とかなるか」くらいの意識で引き受けました。大学の教養課程で聴いた黒体放射に関する講義(レイリー、ジーンズ、ヴィーン、プランクにまつわるあの有名な話)にある種の感動を覚えた記憶も手伝っていました。



文献調査から始め、その後、遠赤外線協会の委員会の末席にも加えていただくようになり、木村さんとの出会いました。木村さんは、遠赤外線協会が国などから受けた委託研究の委員長など、重要な仕事を精力的に引き受けておられました。これらの仕事の成果は遠赤外線協会の委託研究報告書になり、JISなどへと結実しています。私が承知しているだけでも、「遠赤外線用語」、「遠赤ヒータの分光放射率測定法」、「遠赤ヒータの表面温度測定法」、「遠赤ヒータの分光放射エネルギーの測定法」の四つのJISの原案作成委員会で、木村さんは委員長など、主導的な立場で活躍されました。また、このような委員会活動の傍ら、遠赤外線加熱に関わる正しい知識を啓蒙普及するための執筆活動や講演活動に、長年、熱意をもって精力的に取り組まれてこられました。皆様、よくご存じのとおりです。私も木村さんにリードしていただき、多くの仕事に関わらせていただきました。講演会や委員会などで、一緒に出張させていただく機会も多くありました。酒田、名古屋、広島、等々。遠赤外線加熱については全くの素人だった私がそれなりに遠赤外線の仕事をごこなせるようになったのも、木村さんとの出会いがあり、木村さんの人柄と見識に刺激を受け、ご指導いただいた賜物と感謝しております。

私の遠赤外線研究は10年ほどで終了して、別の研究テーマに移ってしまいましたが、木村さんとは、その後も、日本エレクトロヒートセンターでの委員会活動のほか、プライベートな面でもおつきあいをさせていただきました。特にワインとオーディオです。木村さんはワインに造詣が深く、ご自宅でのワインパーティーに私も何度かお招きいただき、おいしい料理とおいしいワインをふるまっていただきました。木村さんのご自宅で最初に飲ませていただいたのは「シャサーニュ・モンラッシェ」。びっくりしました。その後、「プイイ・フェュメ」、「ブルネッロ・ディ・モンタルチーノ」、「バローロ」、等々。そして、多くのワイン知識を吸収させていただきました。私が、時々、おば様方を含む同級会などでワインの知識をひけらかして、一人もていられるのも木村さんのおかげです。ほとんどは木村さんからの受け売りなのです。また、ご自宅でマランツの真空管アンプにタンノイのスピーカーでジャズやクラシックを楽しんでおられました。学生時代にオーディオに多少の興味をもち、真空管アンプもつくったことのある私にとってはこれまた大きな刺激でした。

木村さんは「安いワインを飲んでいる暇はない」と言われていました。「時間は有限であり、お気に入りのことをすべし」と私は解釈しています。そして、「最後は、有り金すべてをもってワインの旅に出たい。行く先々でおいしいワインを飲み、金が尽きたら、そこでおさらばするのだ」とも。イタリアの白ワインでは「ロエロ・アルネイス」が好きだとおっしゃっていました。今頃、これを片手に、曲は コルトレーンの「マイ・フェイバリット・シングス」でしょうか。

長い間、本当にお世話になりました。ありがとうございました。心からお礼申し上げます。どうぞ安らかに。